House of Family History

2015
5. 平成の増築棟
長男一家の移住により手狭になったため、施主と妻の身体に負担をかけないコンパクトな木造平屋を2015年（平成27）に増築。
1924
2. 大正の母屋
1924年（大正13）に西隣の敷地に建てられ、1957年（昭和32）にここに移設された。木造平屋建。
1957
3. 昭和の母屋
1957年（昭和32）に当時20歳だった施主のきょうだいと母の住まいとして、大林組の設計施工で建てられた。2010年（平成22）以降は長男夫妻と子供3人が住む。木造一部2階建。
1968
4. 昭和の増築棟
家族が増え、手狭になったことから1968年（昭和43）増築。木造平屋建。
1915
1. 蔵
1915年（大正4）、主人の祖父の代に新築。1957年（昭和32）に現在の位置に移設。木造2階建。

HISTORY

蔵

1915年（大正4）築。塗っては乾かしの繰り返しでつくられた分厚い壁は火に強く、戦時中は寝床にも使われた。

大正の母屋

1924年（大正13）築。施主の祖父が、しぼりの床柱、黒柿の床框などを選び、丹精を込めて建てた離れ。使わない時は子供たちの勉強部屋にもなった。

昭和の母屋

1957年（昭和32）築。大林組が設計施工。造付けの家具や建具まで細やかに設計された住宅。

昭和の増築棟

1968年（昭和43）築。施主が結婚し手狭になったため、若夫婦の住まいとして増築された平屋。

平成の増築棟

2015年（平成27）築。高齢となった施主夫妻が暮らしやすいように平屋を増築。

元は西隣の敷地に家があった。茶師屋敷が連なる通り沿いに、2階建ての建物2軒が並ぶ他、複数の建物があった。

1947年（昭和2）より、府会議員を2期務めた施主の父が1955年（昭和30）急逝。5人の子息のうち家に残った当時18歳の施主をはじめ3人が学校に行けるよう、父の遺言に従い、

土地の一部を売却。1956年（昭和31）、比較的状態のよかった大正の母屋と蔵は、残された敷地に曳家された。

昭和の母屋ができ、母、施主、妹、弟の一家で暮らしはじめる。大正の母屋は学生の下宿や、嫁いだ姉夫婦の一時居住スペースとして使われた。施主の2人の子供はともに早い段

階で巣立ったため、空きスペースに留学生を受け入れていた時期もある。

2010年（平成22）、施主の長男一家がUターン移住。昭和の母屋に暮らしはじめる。手狭になり、施主夫妻の居住スペースが必要になる。

「平成の増築棟」南側の廊下を見る。幅一間半の腰高窓を介して「大正の母屋」の窓が見える。手前の開口部も幅一間半を開くことができ、風が抜ける。廊下沿い一面の本棚は施主の妻が手すりとして使える高さで統一している。

住み継がれる、終の棲家

古くは大正時代の建物が残る移築、増築を重ねてきた旧家にさらなる増築を行うプロジェクト。昭和32年、現在の敷地内に大正時代築の蔵と母屋が曳家で移設され、その2棟の間に「昭和の母屋」が新築された。その後、施主が家族をもつことをきっかけに「昭和の増築棟」が建てられたが、それから約半世紀後、高齢化した施主が長男一家との二世帯同居をきっかけに「平成の増築棟」が計画されることとなった。

大切に住み継ぎ、住み続けてきた既存部分については設備更新など、メンテナンス的な改修を行う一方で、増築部とそこにつながる部分については、歴史を重ねるような構成を目指した。たとえば「大正の母屋」にあった玄関は「昭和の増築棟」を設ける際に納戸にコンバートされていたが、今回、世帯ごとの玄関を独立させるために玄関へと再コンバートした。納戸の床をはがすと往年の靴脱ぎ石が見つかるなど、過去の記憶を呼び覚ましつつ建物の歴史を紐解くようなプロセスとなった。

「平成の増築棟」の設計にあたっては、既存家屋との連続性やスケール感、素材感の統一を重視するとともに、従来の建物がそうだったように、風の「抜け」が起こるような、庭との連続性を踏襲した中庭型の開放的なプランとした。また、今回の増築部については、高齢になった施主夫妻が可能な限り自立的に暮らせるよう、床はフラットで廊下の幅も広く、建具も引き戸を中心にしている。手すりなどについてもバリアフリーの専用器具は使わずに、普遍的な材料を用いつつさりげなく配置した本棚やカウンターがその役割を担えるようにした。

最も古くから残る蔵の建築から今回の「平成の増築棟」に至るまでに、ちょうど1世紀。その間、5世代にわたって使われてきた建物は時代の移り変わりと家族の成長・変化を経ながら今後も一家の拠点として末永く住み継がれていく。

廊下は車椅子でも余裕のある幅0.75間。高齢者が可能な限り自力で暮らせる明るい空間を意識。床材は傷の付きにくいナラの乱尺フローリング。増築工事の整地時に伐採した木を活用できる薪ストーブを設置。

寝室1。高齢の住人が掃除しやすい床面積。天井の一部を最高高さ3.4mとしトップライトを設けて鉛直方向の広がりを出している。窓枠の見付を薄くし緑を美しく見せている。

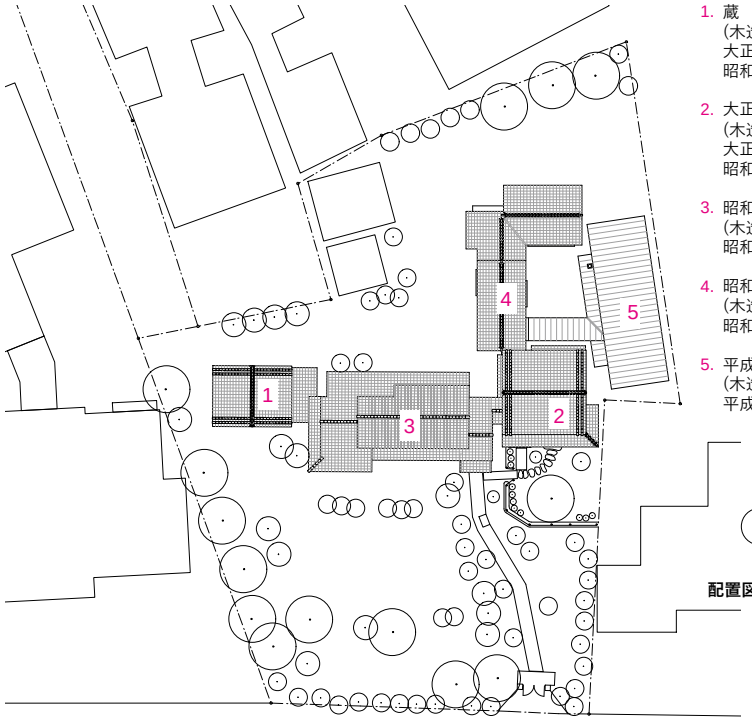
ダイニング。棚は、廊下の棚と同じ高さにそろえている。掃除がしやすいように壁から片持ちで張り出させている。施主が新たに購入したテーブルに合わせて円形のペンダント照明を付けた。

「平成の増築棟」は、左手に見える「昭和の増築棟」と、プロポーションやスケールを合わせている。開放感と風通しを確保するため引き違いの建具で大開口とした。室内と素材感をそろえた木製建具に、複層ガラスを入れている。

DK。施主夫妻は食事で客をもてなすことが多いため、応接機能を兼ねるよう広めに。キッチンはステンレス製カウンタートップのペニンシュラ型。カウンターがフラットで、対面式でも皿を持ち上げることなく料理を出しやすい。

ダイニングでくつろぐ施主夫妻。

敷地内の木々に向けたキッチンの窓。両側に耐力壁を設置。外周部の窓は規格品で、上端の高さを揃えている。



1. 蔵
（木造2階建）
大正4年新築
昭和32年移築

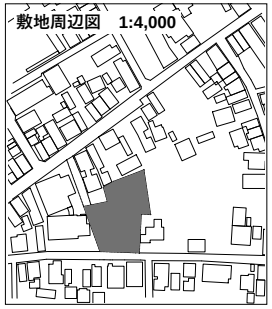
2. 大正の母屋
（木造平屋建）
大正13年築
昭和32年移築

3. 昭和の母屋
（木造一部2階建）
昭和32年新築

4. 昭和の増築棟
（木造平屋建）
昭和43年増築

5. 平成の増築棟
（木造平屋建）
平成27年増築

配置図　1:500

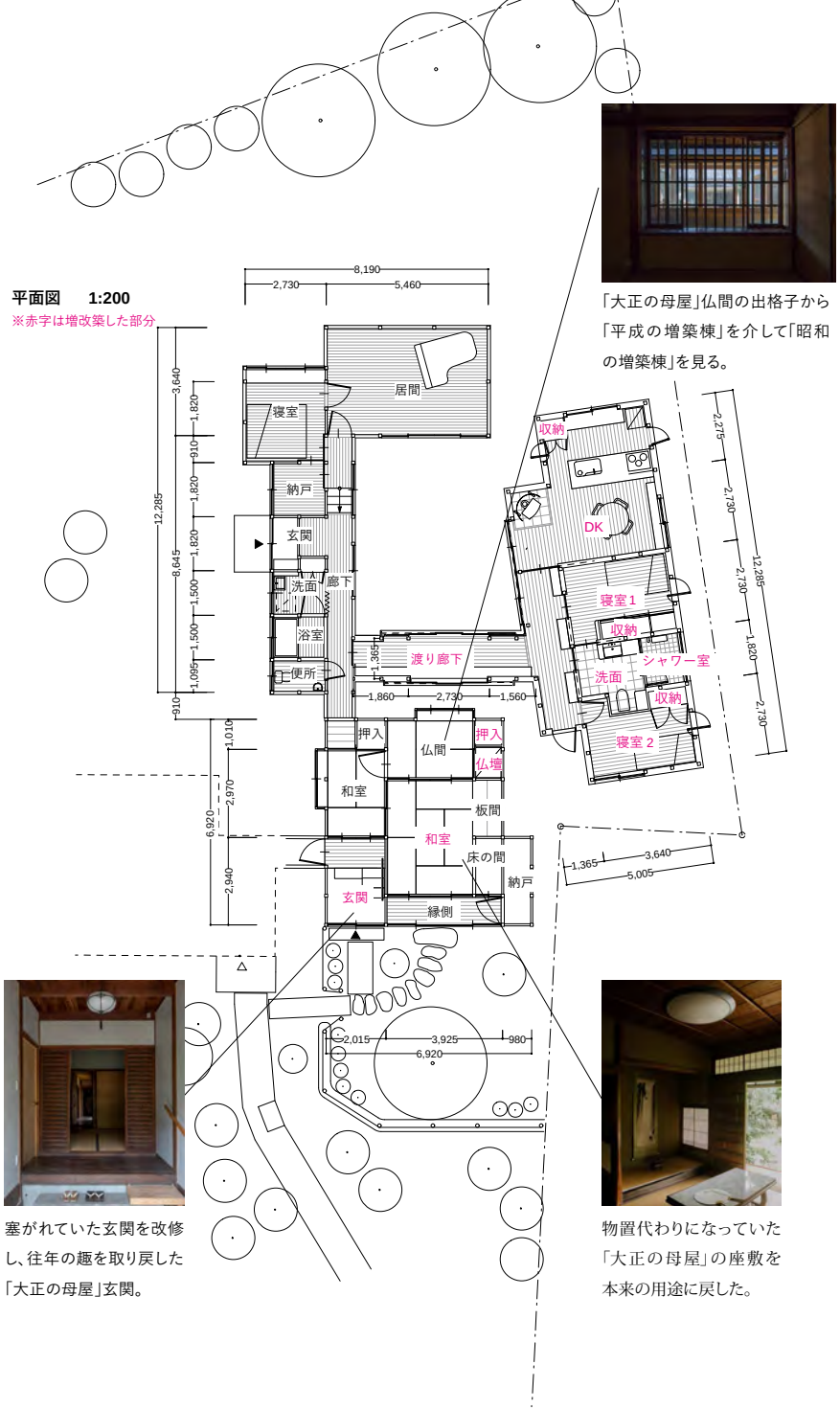


敷地周辺図　1:4,000

出格子と増築棟の重なり

敷地は宇治中心部。残された「大正の母屋」には宇治らしさが現れている。棟梁は宇治の大工と伝えられる上田辰五郎。「移築前は敷地奥にあった建物のさらに裏手に対し、町家の正面のような出格子が付けられていることが不思議です。棟梁のスタイルか、それとも周辺の茶師屋敷で出格子をつくり慣れていたためでしょうか」（清水重敦・京都工芸繊維大学准教授）

その出格子から「平成の増築棟」を介し「昭和の増築棟」まで貫く風景は、この家の歴史の重なりを象徴している。



平面図　1:200

※赤字は増改築した部分

「大正の母屋」仏間の出格子から「平成の増築棟」を介して「昭和の増築棟」を見る。

塞がれていた玄関を改修し、往年の趣を取り戻した「大正の母屋」玄関。

物置代わりになっていた「大正の母屋」の座敷を本来の用途に戻した。

寺川徹

Toru Terakawa

一級建築士

1970年京都府宇治市生まれ。カナダ・マギル大学工学部建築学科卒業後、吉田保夫建築研究所入所。その後、在阪意匠設計事務所勤務を経て同大学大学院修士課程修了(専攻：建築史 ・ 建築論)。 2010年までカナダにてフリーランスデザイナー・翻訳者として活動。2011年寺川徹建築研究所設立

HOUSE of FAMILY HISTORY

所在地／京都府宇治市

主要用途／専用住宅

家族構成／祖父母＋夫婦＋子供3人

設計

（平成の増築棟および各所改修）

寺川徹建築研究所

担当／寺川徹

施工

（平成の増築棟および各所改修）

株式会社 木村工務店＋吉田将広

構造・構法

主体構造・構法／平成の増築棟：木造軸組構法、昭和の増築棟、昭和の母屋、大正の母屋、蔵：木造軸組構法

基礎／

平成の増築棟、昭和の増築棟、昭和の母屋：RC布基礎、

大正の母屋、蔵：S32年曳家時に布基礎設置

規模

階数／

平成の増築棟：地上1階、

昭和の増築棟：地上1階、

昭和の母屋：地上2階、

大正の母屋：地上1階、

蔵：地上2階

敷地面積／1,527.82㎡

建築面積／277.67㎡

延床面積／333.12㎡

（平成の増築棟：64.20㎡、昭和の増築棟：51.34㎡、昭和の母屋：120.04㎡、大正の母屋：45.30㎡、蔵：52.24㎡）

工程

設計期間／2011年8月～2015年3月

工事期間／2015年4月～2015年12月

敷地条件

第一種住居地域

道路幅員　南5.3m

外部仕上げ

屋根／

平成の増築部：ガルバリウム鋼板縦はぜ葺き、昭和の増築棟：いぶし瓦葺き、昭和の母屋：平安型塩焼三州瓦葺き、大正の母屋：いぶし瓦葺き、蔵：いぶし瓦葺き

外壁／平成の増築棟：ラスモルタルt20の上、ジョリパット コテ仕上げ、金属サイディング t15、昭和の増築棟：カラーモルタル掻落し、昭和の母屋：カラーモルタル掻落し、大正の母屋：焼杉板貼、漆喰塗、蔵：焼杉板貼、漆喰塗

内部仕上げ

（平成の増築棟）

DK

床／ナラUNIフローリング t15オイル塗装、壁／コットン繊維入紙系壁紙、天井／上小節源平 杉羽目板

寝室1

床／ナラUNIフローリング t15オイル塗装、壁／土塗 t15の上、珪藻土塗 コテ押え、天井／珪藻土入り無機質系壁紙

寝室2

床／ナラUNIフローリング t15オイル塗装、壁／珪藻土塗り、天井／珪藻土入り無機質系壁紙

パウダールーム

床／天然オイル仕上 コルクタイル300角、壁／耐水PB t12.5 AEP、天井／耐水PB t12.5 AEP

シャワールーム

床／浴室フロア用コルクタイル150角、壁／FRP防水、磁器質50角 施釉タイル、天井／耐水PB t12.5 AEP

廊下

床／ナラUNIフローリング t15オイル塗装、壁／土塗 t15の上、珪藻土塗 刷毛引き仕上げ、天井／上小節源平 杉羽目板

設備システム

（平成の増築棟）

冷房／ルームエアコン、暖房／薪ストーブ、換気／第三種換気、給排水／上下水道直結（雨水分流）、給湯／ガス給湯器

House

of

Family

History

Issued on 12 Nov. 2016

Written by Toru Terakawa, Pomu Kikaku

Edited by Pomu Kikaku

Photo by Rui Izuchi